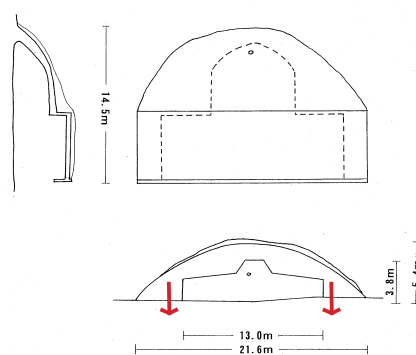


現在の宇佐市で確認できる掩体壕

宇佐市内では**現在合計 11 基の掩体壕**を確認でき、形状や築造方法から大きく 4 種類に分類することができます。



開口部両端は垂直に落ちます

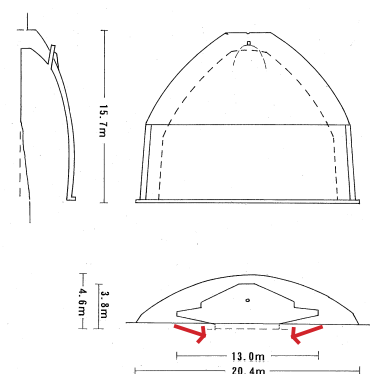


城井 1 号掩体壕～4 号 所在：城井地区

分類：小型有蓋掩体壕

構造：アーチ+ドーム 凸型

備考：2～4 号は開口部が改造されています。2、4 号の元の形状は 1 号と同じで開口部両端が垂直に落ちます。3 号は 5～8 号と同じでやや中心に向かって落ちる形状をしています。



開口部両端はやや中心に向かって落ちます

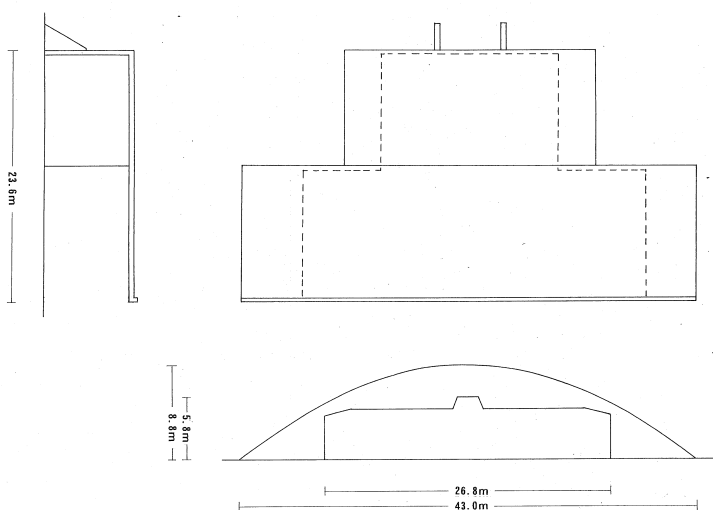


5 号～9 号掩体壕 所在：畑田～上田地区

分類：小型有蓋掩体壕

構造：アーチ+ドーム ホームベース型

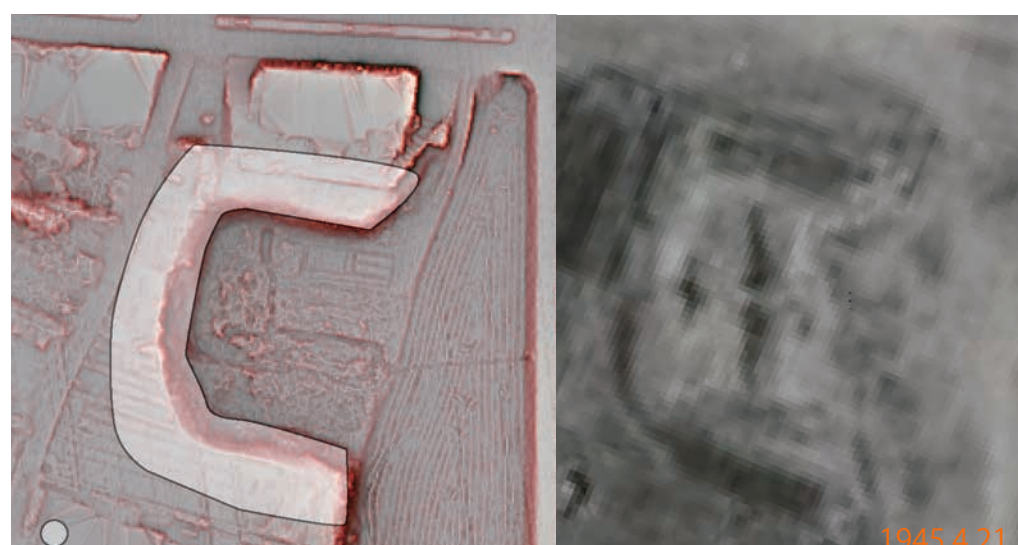
備考：1～4 号より後に築造されました。開口部両端は中心に向かって地面に落ちます。開口部は改造されており、9 号の開口部は 1、2、4 号と同じだったと思われる。



10 号掩体壕 所在：森山地区

分類：中型有蓋掩体壕

構造：アーチ+アーチ 凸型

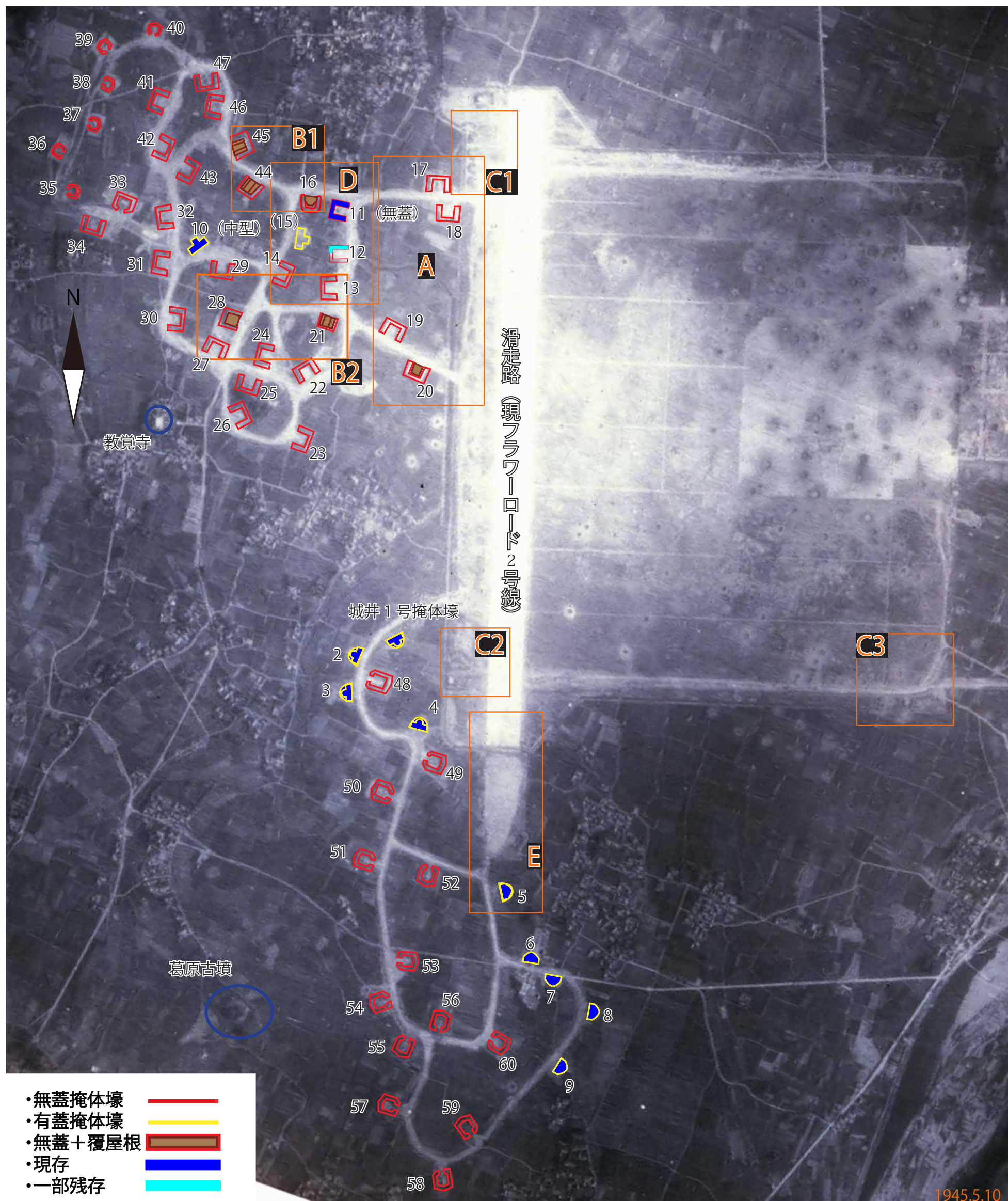


11 号掩体壕 所在：荒木地区

分類：無蓋掩体壕

構造：コの字型

備考：上部は削られて高さが低くなっていますが、基底部は残存しています。



宇佐基地掩体壕配置図

1945年5月10日米軍により撮影された宇佐市の様子（上がおおよそ北）

宇佐市教育委員会 2025『小部遺跡Ⅲ - 古代・中世・近代編 - 』より引用し、一部改訂

宇佐基地で確認できる掩体壕に仮番号を付けた図です。1945年に宇佐市内で確認できる掩体壕は**有蓋掩体壕 12基**（15号は築造中、16号は木製有蓋掩体壕か）、**無蓋掩体壕 48基、合計 60基**（15号は築造中）です。

航空写真や日本に残る資料、米軍資料によると宇佐基地の掩体壕 60 基の内訳は以下の通りですおおいやねつき覆屋根付無蓋掩体壕の覆屋根は、基礎無しの簡易なものであるため無蓋として計算しています。

大分類	材質	規模	平面形	数量	番号	備考
有蓋	RC	中型	凸	2	10,15	10 現存、15 築造中
		小型		4	1-4	全て現存
		土+木？	中型？	HB	5	5-9
	1				16	
無蓋	土	中型	コ	24	11-14,17-19,22-27, 29-34,41-43,46,47,	33 は開口部に袖
	土+木？			5	20,21,28,44,45	覆屋根付角型
	土	小型	C6 角	6	35-40	
		中型		13	48-60	

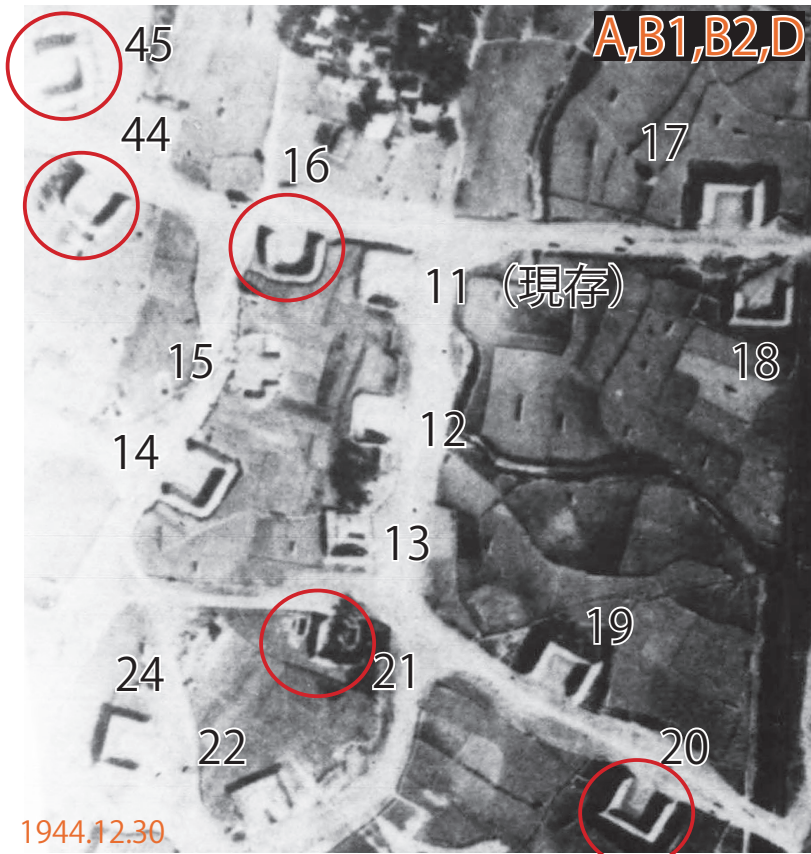
※材質の RC はコンクリート製、平面形の HB はホームベース型の略称、C6 角は C 字型 6 角形の略称

宇佐基地掩体壕配置図の範囲 A～E

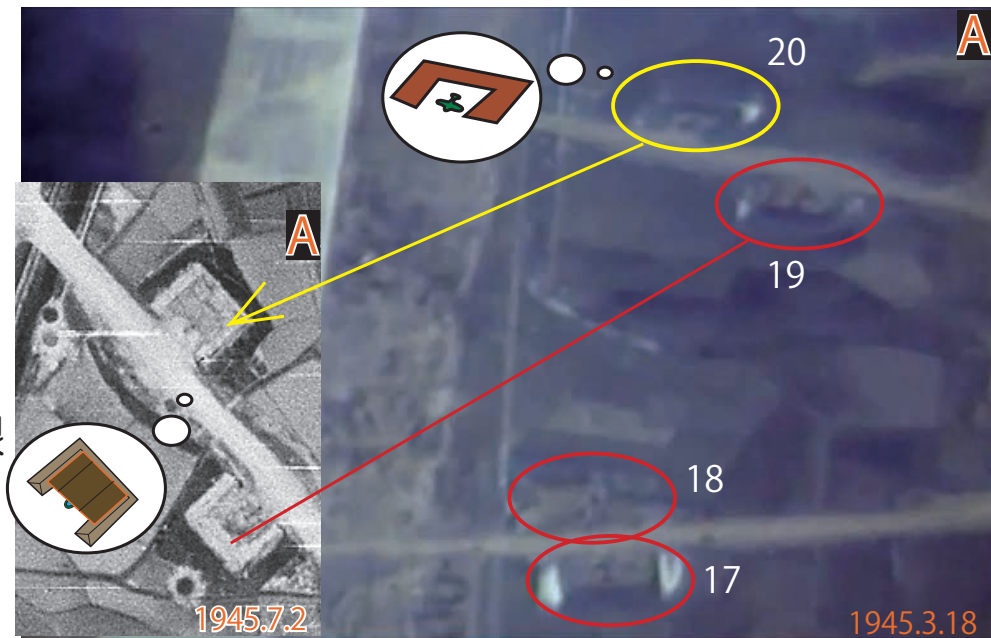
宇佐基地ではおおいやね覆屋根付無蓋掩体壕（20、21、28、44、45）、木製？有蓋掩体壕（16）が確認されていますが、1944 年 12 月 30 日に米軍により撮影された航空写真では 1 基もありません。

範囲 A では 1945 年 3 月 18 日の米軍のガンカメラ映像に 17～20 号掩体壕が見えています。20 号掩体壕内部に格納した飛行機が見えるため覆屋根はまだありませんが、1945 年 7 月 2 日の写真では覆屋根ができています。

範囲 B1、B2 の 16、20、21、28、44、45 号は 1945 年 4 月 21 日、5 月 10 日、7 月 2 日の米軍が撮影した航空写真で覆屋根ができています。

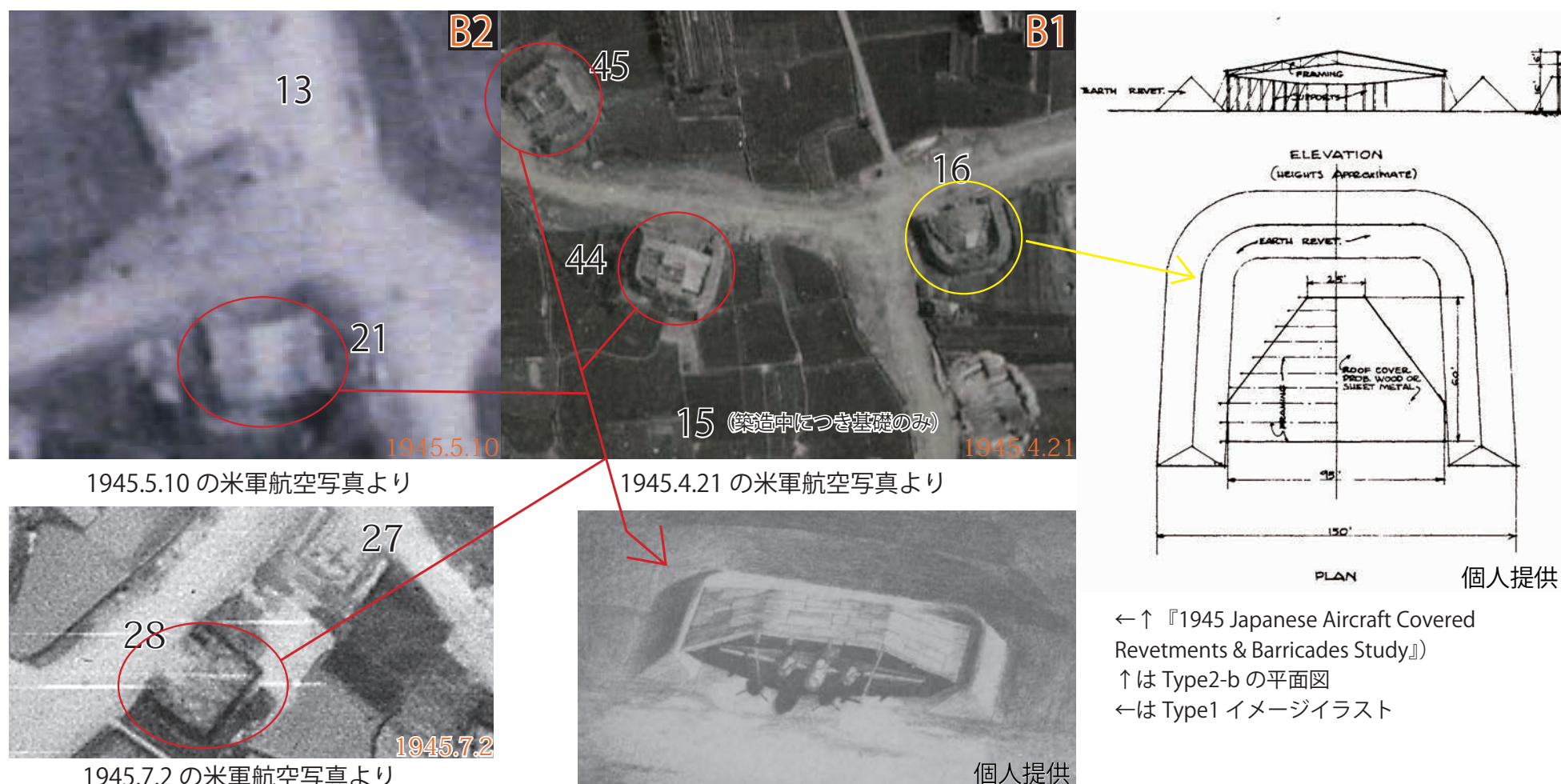


1944.12.30 の米軍航空写真より



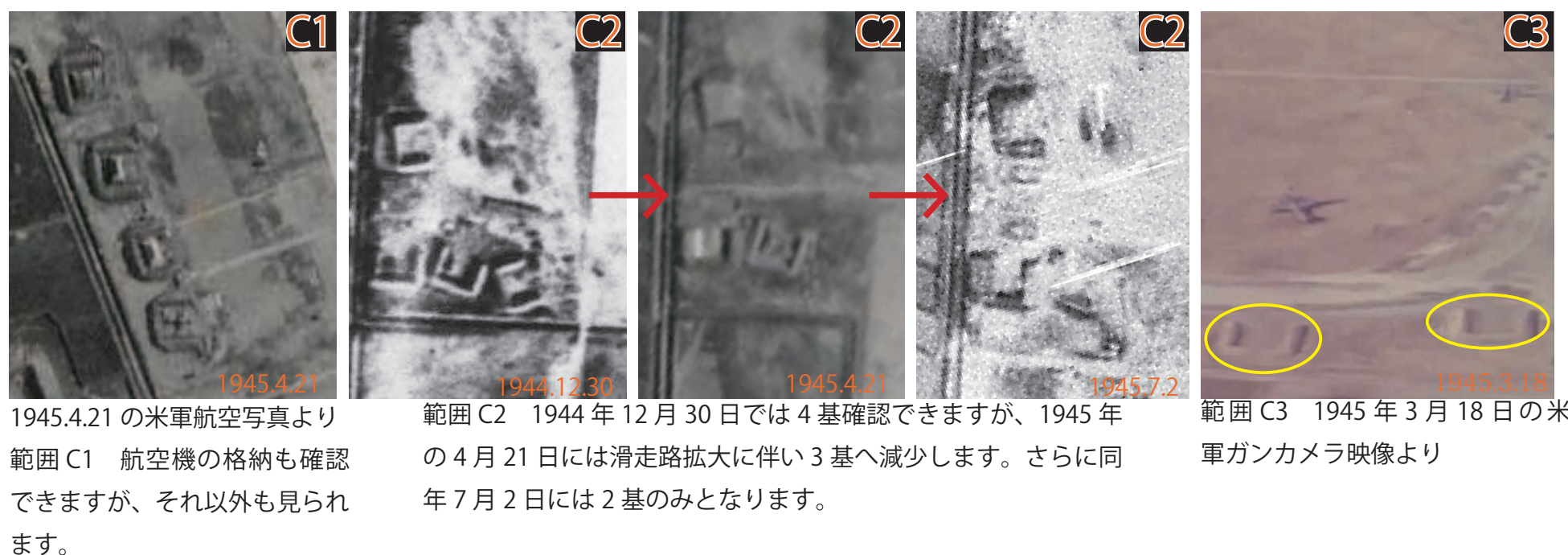
1945.7.2 の米軍航空写真より

1945.3.18 の米軍のガンカメラ映像より



20、21、28、44、45 号の 5 基は『1945 Japanese Aircraft Covered Revetments & Barricades Study』でも確認できる TYPE1 の四角形の屋根をしています。16 号は無蓋掩体壕の中にホームベース型の掩体壕が入っているように見え、米軍資料では Type2-b と紹介されています。これらの覆屋根はコンクリート製ではなく、木製であった可能性が考えられます。

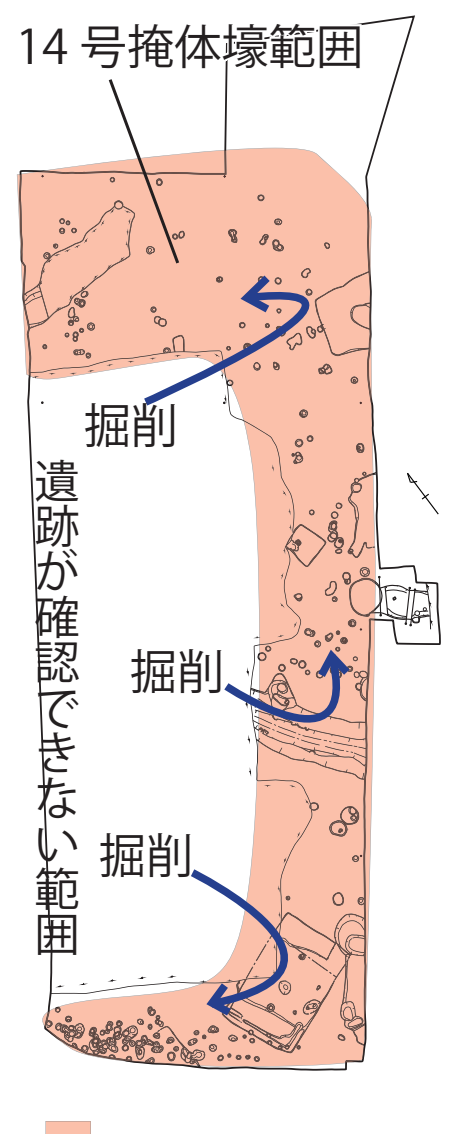
範囲 C1 ～ 3 では航空写真よりコの字型の無蓋掩体壕のように見えますが、小型掩体壕と比較しても一回り小型です。日本軍の資料には C1 は「桜花用プラットホーム」とあります。飛行機が格納されている様子も確認できますが、その他の格納状態も見られます。これらの小さい掩体壕は航空機専用ではなく、車両や作業のためのものである可能性が考えられるため今回の集計の総数には入れておらず、今後の研究が必要です。





範囲Dの宇佐市大字荒木には国指定史跡^{こべ}小部遺跡が所在しており、古墳時代前期頃の社会構造を良好に残す遺跡です。川部にある赤塚古墳と同時期の、^{かんごう}環濠と大型の掘立柱建物を持つ^{ごうぞくきょかん}豪族居館と考えられています。小部遺跡はその後の飛鳥時代や鎌倉時代においても人々の活動が確認されており、太平洋戦争中には掩体壕が6基築造されました。

11号は残存する無蓋掩体壕です。11号を除く掩体壕は解体され、田畑となりました。14号掩体壕は小部遺跡の発掘調査中にその痕跡が発見されました。発掘調査範囲の中で遺跡が確認できない範囲がありました。14号は内側を掘削してその土を周囲に盛り上げて築造したため、内側の遺跡が破壊されました。反対に土を盛り上げた掩体壕のコの字の部分には遺跡が守られ、遺跡が確認できたということが判明しました。



小部遺跡 4a 区全体遺構図



範囲E (①) は1945年10月27日に米軍により撮影された宇佐市の写真です。②の黄色丸で示した場所では、**滑走路跡の一部が残存**しています。③は①と同じ方向の5号掩体壕から直線上にのぞむ滑走路跡の様子です。



城井地区南西上空から撮影
小型有蓋掩体壕が4基(1~4号)が現存しています。
目の前には平和な宇佐平野が広がっています。



畑田・上田地区南東上空から撮影
5基の小型有蓋掩体壕が現存しています。



荒木・森山地区西上空から撮影
中型掩体壕と無蓋掩体壕が1基ずつ現存しています。

おわりに

本展では掩体壕とは何か、全国の「掩体壕があったまち」、「掩体壕が残るまち」、「掩体壕を探るまち」、「掩体壕を残すまち」の様子を紹介しました。

戦後 80 年のなかで、戦争体験者は減少しています。掩体壕も徐々に消えていき、平和な日々の中で戦争の記憶は色褪せ、遠い存在となりつつあります。しかし忘却の先に同じ悲劇を繰り返さないためにも、「我がまちも戦場であった」記憶を継承していく必要があります。掩体壕には、資源が少なかった戦後に家や小屋として使用された例も見られます。復興や発展によりまちの開発が進む中、掩体壕は消失の危機にあっても、多くの人々の掩体壕を平和のために残そうとしてきた熱い思いにより守られてきた歴史があります。現存する掩体壕は「戦争の凄惨な記憶」、「戦後復興期の苦労の記憶」、「平和を求める思い」という日本の激動の歴史を見てきた物言わぬ証言者であり、後世に残していかなければなりません。掩体壕は減少しないよう保護しないといけませんが、「掩体壕を作るまち」に決してならないように、平和についてこれからも考えていく必要があります。掩体壕は声を発しません。関心をもち、寄り添ってみてください。きっと戦争の記憶、その後の平和な日本の日常を静かに語りかけてくれるでしょう。

宇佐市ではこれからも未来へ戦争の記憶を繋げ、平和とは何かについて考えるための取り組みを進めて参ります。今後とも地域の歴史に関心を寄せていただけたらうれしく思います。皆様のご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

宇佐市教育委員会

参考文献・注

注 使用した画像のうち、個人提供表記されたもの、および報告書引用資料以外は宇佐市所蔵資料です。

- ・小倉正五「宇佐の遺跡群と掩体壕の保存」「おおいた文化財フォーラム・宇佐」実行委員会 1997『宇佐文化古代と現代』
- ・林一也「第2文科会「城井1号掩体壕の調査と保存」」戦争遺跡保存全国ネットワーク・第7回宇佐大会実行委員会 2003『第7回戦争遺跡保存全国シンポジウム宇佐大会』
- ・日向市教育委員会 2004『財光寺1号掩体壕』
- ・村上康蔵「コラム「掩体壕のいろいろ」」戦争遺跡保存全国ネットワーク編著 2004『日本の戦争遺跡』株式会社平凡社
- ・松崎相「野外平和博物館としての戦争遺跡の意義－掩体壕の活用を通して－」全日本博物館学会 2007『博物館学雑誌』第33巻
- ・府中市教育委員会 2008『白糸台掩体壕保存整備に伴う調査報告書』
- ・下澤聡「太平洋戦争末期における掩体壕の様相－九州・四国を中心に－」古文化研究会 2008『古文化談叢』第60集
- ・財団法人 北海道埋蔵文化財センター 2009『アンカリトー7遺跡 アンカリトー9遺跡』
- ・李弁珩「太平洋戦争期日本軍の済州島駐屯と軍事施設」平成21年度文部科学省特別教育研究費プロジェクト琉球大学「人の移動と21世紀グローバル社会」韓国研究班 編 2010『シンポジウム韓国済州島の日本軍戦争遺跡 -- 調査・研究・保存・活用の現状』
- ・福田鉄文 著 2010『宮崎の戦争遺跡』鉾脈社
- ・小西誠 著 2012『本土決戦 戦跡ガイド (Part1)』社会批評社
- ・大西進 著 2012『日常の中の戦争遺跡』株式会社アットワークス
- ・今戸公徳 2013『宇佐海軍航空隊始末記』潮書房光人社
- ・由利崇「高知海軍航空隊関連遺跡の調査」日本考古学協会 2015『日本考古学』第39号
- ・沖縄県立埋蔵文化財センター 2015『沖縄県の戦争遺跡－平成22～26年度戦争遺跡詳細確認調査報告書』
- ・南九州市教育委員会 2015『知覧飛行場跡－三角兵舎跡・掩体壕跡・滑走路跡－』
- ・土田義明（プレジデント社） 編 2015『戦争遺跡』プレジデント社
- ・吉浜忍 著 2017『沖縄の戦争遺跡＜記憶＞を未来につなげる』吉川弘文館
- ・高谷和生「陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕の系譜」空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2017『第4回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会発表資料』
- ・あさざり町教育委員会 2017『陸軍人吉秘匿飛行場跡：木製有蓋掩体壕跡の埋蔵文化財発掘調査』
- ・東近江市教育委員会埋蔵文化財センター 2017『「布引掩体壕群」』
- ・小手川清隆「鹿屋市平和学習ガイドの活動と鹿屋市の掩体壕」空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2019『第6回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会』
- ・岩切八郎「赤江（宮崎海軍航空基地）の掩体壕保存」空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2019『第6回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会』
- ・橋元邦和「出水海軍航空基地掩体壕の調査と整備」空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2019『第6回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会』
- ・松山市教育委員会公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター 2021『松山市埋蔵文化財調査年報33』
- ・高谷和生 2020『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』株式会社 城野印刷所
- ・米子市教育委員会 2022『旧海軍美保航空隊飛行機用掩体』
- ・古谷真人・柴原聡一郎「中攻掩体に関する考古学的研究－3次元計測による海軍築城航空基地稲童1号掩体の調査－」九州古文化研究会 2024『古文化談叢』第90集
- ・行橋市教育委員会 2023『海軍築城国卯吉 稲童掩体（稲童1号掩体壕）』
- ・住吉太郎「芦屋基地に現存する飛行機用掩体壕について」空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2023『第10回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集』
- ・宇佐市教育委員会 2025『小部遺跡Ⅲ -- 古代・中世・近世・近代編』
- ・『1945 Japanese Aircraft Covered Revetments & Barricades Study』
- ・「内観音寺分遣隊」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.08011079000、航空隊 引渡目録8/14（防衛省防衛研究所）

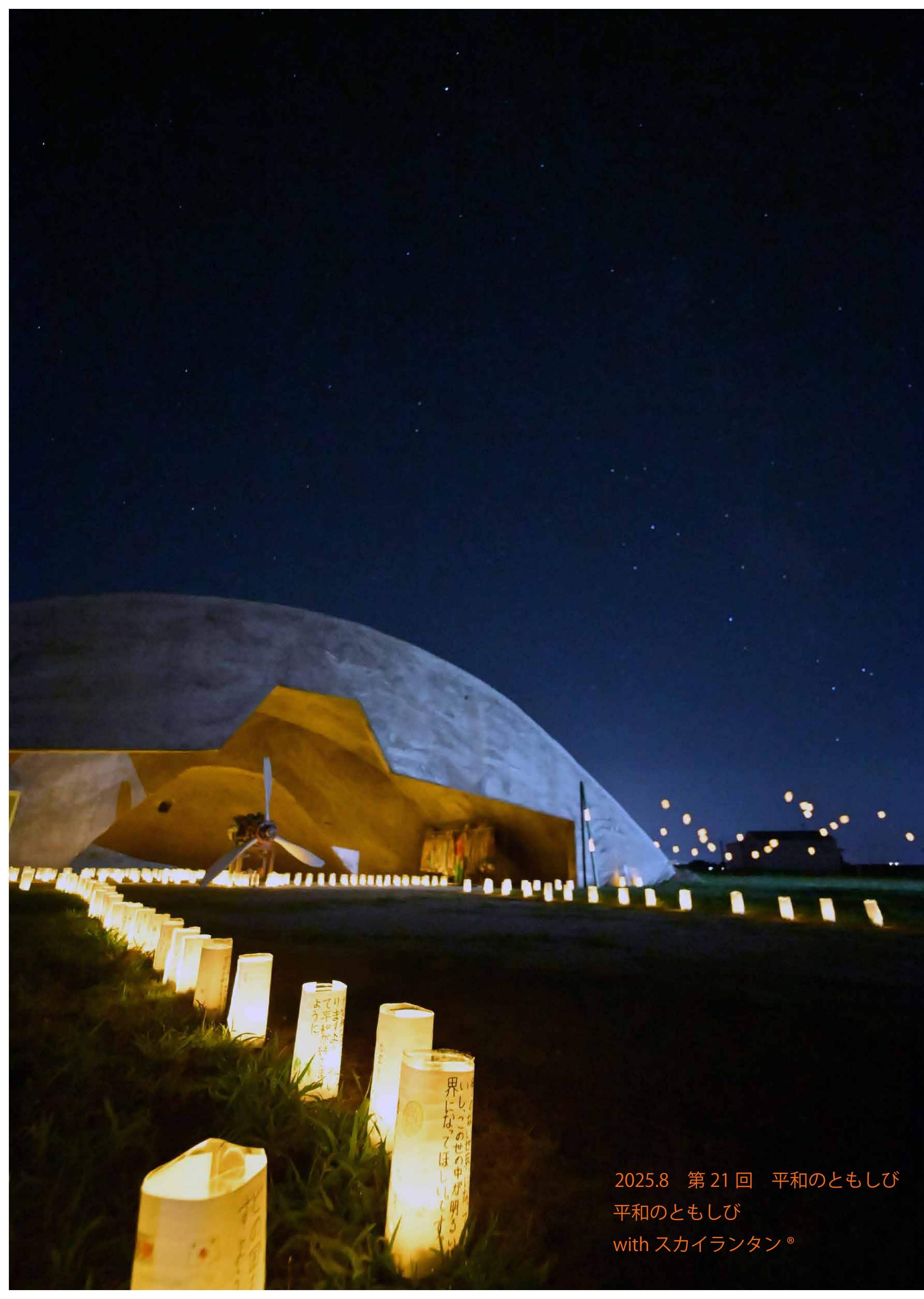
掩体壕の見学について

掩体壕には史跡公園整備が済んでいないものも多くあります。私有地や掩体壕を現在も使用している方がいる場合があります。また荒れ地や経年劣化により崩落の危険がある場合もあるので、見学の際は一度その町の役所にお問い合わせください。

令和7年9月

戦後80年 宇佐学講座
掩体壕は静かに語る
-80年目とこれから-
展示資料編

宇佐市教育委員会 編



2025.8 第21回 平和のともしび
平和のともしび
with スカイランタン®